



慶應義塾大学ビジネス・スクール

初めてディスカッションリードを行う教師の胸中

5 1. レクチャーからケースメソッドへ

今春、開校もない大学院で、はじめてのケースメソッド授業を行う機会を得た。大学で教壇にたちはじめて5年目での出来事だった。これまでの講義は、理論を中心として構成したものがほとんどであった。企業やマネジメントの事例に触れることもあったが、それは事例としての紹介と解説にとどまっていた。いちおうの教育経験は有していたが、ケースメソッド授業の受講歴も、またそれを実践するためのトレーニングを受けたこともなく、まったくの初心者状態であった。

ケースメソッド授業に対しては、教室でいきな議論が展開され刺激的であるだろうという期待感が大きかった反面、うまくリードできるかどうかという不安をぬぐいきれなかった。また、経験の不足は、いろいろな疑問へとつながっていった。加えて、受講者の大半が自分よりも年長の社会人の学生たちであるということも、それらの不安や疑問を増幅させることにつながった。

ディスカッションのリードはうまくいくのか。そのために、何を心がけ、どのような注意を払うべきなのか。実際の授業ではどのようなことが起こるのか。それらに、どのように対処すればよいのか。いままでの講義スタイルからの切り替えはうまくいくのか。はじめての授業を目前にし、期待と不安が渦巻いていた。

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール博士・修士課程併設科目「ケースメソッド教授法特論」の教材とするために、香川大学大学院地域マネジメント研究科助教授 松岡久美が作成した。(2004. 10)

本ノートは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ノートの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ノートの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ノートのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

Copyright©2004 は慶應義塾大学ビジネス・スクールが保有する。